白帆

〒247−0054
神奈川県鎌倉市高野8−1
神奈川県立大船高等学校白帆会
TEL 0467−47−1811
FAX 0467−43−4856
編集・印刷／㈱リサーチ
TEL 048−738−8929

皆を繋ぐ架け橋

大船高校同窓会　白帆会会長
1期　黒沢 全匡

白帆会の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

今春、大船高校では35期生の入学式が挙行され、約400名の新入生が入学しました。開校当時は1学年10クラス、その後は増え続け、最も多い時は12クラス540名、逆に最も少ない時で6クラス200名でした。現在では3年生9クラス、2年生10クラス、1年生10クラスと、生徒が1000名を超える大きな学校となっています。環境がよく、学力も右肩上がり、部活動も盛んなためでしょうか、県内の遠方からでも大船高校を希望し、通われる生徒が多いと伺います。交通の便が良いのも一つですが、魅力ある学校と思われるのは、卒業生にとっても嬉しい限りです。勉強に行事に部活動に、現役生には高校生活を有意義なものにしていただければ有り難いですね。

近年の当会の活動は、6月の白帆祭に合わせて開催される総会、各期、各クラスの同窓会の支援を中心に活動しています。卒業後、成人の記念に、10年振りにと様々ですが、多くの同窓会が開催されています。それをきっかけにクラス会、部活動の同窓会なども開催されるようになりました。皆さんよりいただいた名簿をしっかりと管理していますので、いつでもお声掛けいただければお手伝いをいたします。また、すべての会員に向けての事業として、「流鏑馬（やぶさめ）」を開催いたしました。前日の雨でグラウンドは緩み、開催が危ぶまれましたが、馬5頭を立てて武田流一門の皆様に騎射をいただき、無事に行事を終えることができました。学校の先生方、生徒の皆さん、お集まりいただいた大勢の方のご協力があってこその事業、関係各位に御礼を申し上げる次第です。

今般、久し振りに会報紙を作りました。大々的ではありませんが、ホームページを各種案内の中心としている一方、たまには昔に戻り、実際に手に取って学校の様子を見ていただくのもよいかと思いました。また、近年の同窓会開催のお手伝いをさせていただくと、所在が分からなくなっているケースが多くなりました。皆さんの手元に届いているか、確認するためにも必要なものなのです。卒業生は1100人を超え、関係する会員はそれ以上です。多くの方と学校とがいつまでも繋がりを持てる一つの手段と思っています。

現在、役員をはじめ常任幹事もなかなか集まることが難しい状況です。あと5年もすると学校開校40年の記念の年を迎えます。活動継続のため、協力をいただける方を募集していますので、気軽にお知らせください。細く長くではございますが、学校と皆様を繋ぎ、会員同士の架け橋のような存在を目指して活動しておりますので、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

総会のご案内

白帆祭（文化祭）に合わせて総会を開催します。
皆様のご参加をお待ちしております。

平成29年度（第32回）白帆会総会

日　時　平成29年**6**月**10**日（土）
午前**10**時より**10**時**30**分

場　所　大船高校　（使用教室未定）

次　第

(1) 開会の辞
(2) 会長挨拶
(3) 議長選出
(4) 議案
　①平成28年度事業報告
　②平成28年度決算報告・監査報告
　③平成29年度事業計画案
　④平成29年度予算案
　⑤その他
(5) 閉会の辞
(6) 諸連絡

※白帆祭は午前9時30分より開始されます
※総会終了後、教室は同窓生の歓談スペースになります
※その他、ホームページにてご確認ください

●常任幹事会を開催します。9時から設営しますので、常任幹事の方はそれまでに学校にいらしてください。

日　時　平成29年**6**月**10**日（土）
午前**9**時**30**分より

場　所　**大船高校**（使用教室未定）

同窓会開催と名簿のご利用方法

白帆会では同窓会・クラス会開催のお手伝いをさせていただいております

同窓会を企画したつもりが、身近なお友達の連絡先しかわからなくて結局いつもの面子になってしまったなんてことはありませんか。あんなに仲が良かったのに、卒業してちょっと会わないうちにすっかり疎遠になってしまったクラスメイト、思えば現在の自分より年下だった担任の先生。いざ連絡を取りたいと思っても、なかなか難しいこともあると思います。

そんなときには白帆会の管理する卒業生名簿をご活用ください。名簿は卒業時の情報を元に、会報誌発行や白帆祭の際に皆様にご協力頂き更新を重ねております。そうしたものですので古い情報もありますが、お手元の情報と合わせることで広く声をかけることができるはずです。会としても、そうした機会にまた名簿を更新することができれば、より有用な情報を得ることができますので名簿は無償にてご利用頂けます。

ただし、こちらで把握した情報につきましては厳重に管理の上、閲覧を不可としておりますので、ご利用方法がやや複雑となっております。今回こちらについてご説明いたします。

宛名印刷の上、投函までを見届けさせていただきます

名簿ご利用のご依頼を受けますと、当会では管理業者に必要分の宛名ラベル印刷を発注します。

その間に幹事様のほうでは案内状を発送できる状態までご用意いただきます。双方準備ができたら日時・場所をご相談の上、案内状へのラベル貼りを実施します。完了した郵送物もお持ち帰り頂くことは出来ませんので、そのままポスト投函までを当会役員が立ち会いますが、いささか面倒なようですが、個人情報の流出を防ぐための手続きということで、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。また、幹事様のご了解が得られた場合には、当会のWEBサイトとFacebookページにても告知、開催後はご報告も掲載させて頂いております。

名簿の更新にご協力ください

こうして管理している情報ではありますが、大船高校も創立30年を過ぎ、今回のように会報誌を送付しても戻ってきてしまうケースも増えております。

今回会報誌が届かなかったというお友達がいらっしゃる場合には是非白帆会へのご連絡をお勧めください。現状では郵送でのご連絡が一番確実と考えておりますが、電子メールでも結構ですし、暗号化された住所変更受付フォームの設置も検討しております。お引越しの際などご一報頂けますと幸いです。皆様のご協力が懐かしい再会の場を生み出します。

白帆会役員・お手伝いしていただける方を募集しています。

◯役員　◯お手伝いしていただける方

卒業生も11,287人を数えるまでになりました。白帆会では、在校生の支援活動や、各学年で同窓会を企画する際に連絡業務のお手伝いを行っています。卒業後すぐの方でも大歓迎です。期別問わず集まっていただけると、うれしいです。社会に出ると忙しい場面もあると思います。メールくらいしか出来ない、幹事会に出席出来るかどうか分らない。無理の無い範囲で、お手伝いをお願いしたいと思っております。

詳しくは、info@shirahokai.comまで、ご連絡下さい。

webサイト:http://shirahokai.com/
E-mail:info@shirahokai.com
事務局住所:
〒247-0054　鎌倉市高野8−1
神奈川県立大船高等学校白帆会

近年の事業報告

平成26年12月21日大船高校グラウンドにて流鏑馬を開催いたしました。この企画は当同窓会発足３０周年を記念し大船高校との共催で実現。演舞披露していただいたのは公益社団法人大日本弓馬会 日本古式弓馬術協會 武田流の皆様、そして弓道部員の皆さんも諸役として活躍。前日の馬場設営には冷たい雨や雪が降る中、多くの有志が泥だらけで力仕事に参加して下さり無事開催へと漕ぎ着けました。流鏑馬の当日は青空の下、会員だけでなく在校生や保護者、学校関係者、地域の方々など約１５００人もの多くの方々にご覧いただけました。この流鏑馬を通じて伝統文化の発展と継承、また地元鎌倉の活性化に少しでも寄与できたのであれば幸いです。また次の機会があれば皆様もぜひご参加下さい。

大船高校流鏑馬

継承される鎌倉の伝統文化

～卒業生と　鎌倉在住の皆様と　その子供たちへ～

はじめに

流鏑馬は第29代欽明天皇の頃に遡ります。天皇は戦乱の世を平定するため豊前の国宇佐（現在の大分県宇佐八幡宮）の地に神功皇后と応神天皇を祀られます。そして、神前で天下泰平・五穀豊穣・国民安堵を祈られ、馬上から3つの矢を射られたのが流鏑馬（矢馳馬）の起源と伝わります。その後、第59代宇多天皇の勅命により源能有が弓馬の礼を制定し、以来、源家を経て武田、小笠原両家に相伝されました。

弓馬の礼は室町時代、芸州（現在の広島県）の国主である武田家が司り、江戸時代には肥後（現在の熊本県）の国の細川家に移ることになりますが、細川忠利は家臣竹原惟成に武田流流鏑馬を命じ、竹原家が10代にわたり明治時代までこれを守ります。鎌倉においては昭和9年10月、細川護立公の許可により、第14代竹原惟路の高弟・井上平太の系統を直弟子である金子有鄰が継承しました。

大船高校 流鏑馬式次第

1 出陣

奉行の打つ「寄せの太鼓」を合図に、射手、諸役、一同広場に集合します。

2 天長地久の式

奉行は「五行の乗法」を行います。乗馬して左廻り3回、右回り2回、中央の位置で馬を止め、鏑矢を弓につがえて天と地に対し満月に引き、天長地久、五穀豊穣を祈念します。そして「序の太鼓」を打ちながら馬場本に向かって行進、諸役は各所につきます。射手は乗馬のまま馬場本に残り、奉行は下馬し櫓に組んだ記録所にあがり、諸役が各所についたのを確かめ「破の太鼓」を打ちます。馬場本・末の扇方は準備が完了したことを扇の合図で知らせると、射手は順番に「素馳」を開始します。

3 騎射

①式の的

的は1尺8寸四方で、檜板を網代にあみ、その上に白紙を張り青黄赤白黒の五色で丸的を表し、的の後には四季の花を添えます。式の的の騎射に移り射手は数組に分かれてそれぞれ2回奉射して全速力でかけ抜けます。射手は各々3回6本の矢を馬上から射ります。

②競いの的（競射）

的は、土器2枚を合わせた中に五色の切紙を入れた3寸の小的で、命中すると土器は砕け、中から五色の紙吹雪が舞います。競射は式の的を多く的中した者がその資格を有します。競射が終わると奉行は記録所において「止めの太鼓」を打ち鳴らし、諸役、奉行、射手は乗馬のまま広場に帰り、凱陣の式を行います。

4 凱陣の式

競射の最多的中者は、式の的を持ち、奉行前に進み出て跪座します。そして奉行は扇を開き骨間より的を検分します。さらに扇を戻し、太刀の鯉口を切った時、太鼓は3打し、奉行の「エイ・エイ・エイ」の声に続いて、射手、諸役一同が「オー」と唱和します。これを3回繰り返し勝鬨をあげます。

おわりに

今企画は公益社団法人大日本弓馬会 日本古式弓馬術協會 武田流の皆様のご協力の下、当同窓会と大船高校と共催にて開催する運びとなりました。鎌倉の伝統文化である流鏑馬を会員、学校関係者、近隣をはじめとする市内在住の皆様、特に小中高生等多くの方々にご覧いただき、伝統文化の発展と継承、また地元鎌倉の活性化に寄与したいと考えます。流鏑馬を通じ、多くの方が伝統文化にふれていただき、今一度、地元鎌倉を見つめ直すきっかけの一助となれば幸甚です。本日はご来場、誠にありがとうございました。

～県立大船高校同窓会
白帆会　役員一同～